

看護学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部看護学科は、主体的に学問を探究し、人格形成とさまざまな人々への理解の涵養により、地域社会における生活者の健康回復・維持・増進に向けて創造的に活躍できる人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 豊かな人間性と幅広い教養を備え、看護学の専門的知識と技能を総合的に理解できる。
- (2) 社会の要請に柔軟に対応するために必要とされる専門的知識をもち、対象者の健康レベル・健康課題を成長発達に応じてアセスメントできる。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 看護職及び在宅療養を支援する保健医療福祉専門職の役割と、スポーツ・健康科学分野の専門職との連携により、疾病・介護予防に貢献するためのアプローチについて考察できる。
- (2) 特定の健康課題のある看護の対象者が、住み慣れた地域社会で尊厳ある療養生活が送れるよう援助方法の計画立案及び具体的な援助を実践できる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 看護師としての職業的アイデンティティの基盤をつくり、専門職として生涯にわたり継続して専門的能力を向上させることの重要性を理解し、具体的なキャリアデザインを計画できる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 多様な文化的背景をもつ様々な看護の対象を理解し、コミュニケーション能力を発揮し、看護専門職として多文化社会における諸問題の解決に向けて理解し考察することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 総合基礎科目（全学共通科目・基本スキル科目）、専門基礎科目（人体の構造と機能、疾病と治療、地域社会と医療福祉）、専門科目（看護の基盤、看護の実践Ⅰ、看護の実践Ⅱ、看護の実践Ⅲ、看護の統合）の3つの科目群で構成する。
- (2) 総合基礎科目では、ひとりの人間として深い教養と豊かな人間性を身につけ、さまざまな人々の異なる文化や考え方、多様な価値観が理解できるよう幅広い分野を学修する。また、大学生としての円滑な適応を促進し、基本的な対人関係スキルと外国語の強化を図るための科目を配置する。
- (3) 専門基礎科目では、ヒューマンケアの専門職としての前提となる必要不可欠な知識・技術を修得す

るための科目区分とする。『人体の構造と機能』では、生命活動や身体の働き、心理・社会的発達とこころの働きなどについて学修する。また、『疾病と治療』で、疾病の原因・発生機序・症状、検査・治療を学修し、『地域社会と医療福祉』において、地域の文化、地域で生活する人々の健康の保持・増進と疾病予防、保健医療福祉制度などについて学修する。

- (4) 専門科目では、基礎から応用・発展、統合の学修へと向かう科目区分とする。『看護の基盤』で、全ての看護学領域に共通し、看護実践能力獲得の基盤となる基本的な知識・技術・態度を修得する。その上で、看護専門職として多様化・複雑化する看護の対象者に幅広く対応できる能力を修得するために『看護の実践Ⅰ（理論と方法）』、『看護の実践Ⅱ（臨地実習）』、『看護の実践Ⅲ（看護の発展）』で、対象や場に応じた看護学を学修し、さらに、『看護の統合』で体系的な看護学を学修する。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、ICT 教育や PBL 型教育など、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を積極的に採用する。
- (2) タブレット端末等にインストールした電子書籍・動画教材を活用し、看護技術演習や臨地実習での学習を支援する。また、タブレット端末を利用した演習などのフィードバックによりインタラクティブな教育を実施する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針に掲げられた能力の形成的な評価として、看護学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト、OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験) などの結果によって測定するものとする。
- (2) 国家試験受験者に関しては、4 年間の認知領域の学修成果の一つとして、国家試験の結果によって測定する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

看護学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 入学後の学修に必要な基礎学力としての知識を有している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 物事を多方面から論理的に思考することができる。
- (2) 自分の考えを的確に表現し、言語化することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 看護の対象者である人間が好きで、その健康に関わる諸問題について、深い関心と倫理観を備え、看護を学びたいという意欲がある。
- (2) 道徳的で積極的に他者とのかわり対話ができる態度を有している。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後))	大学入学共通テスト	●		
一般選抜 (全学部統一入試 (前・後))	学力試験 (国・英)	●		
一般選抜 (3教科)	学力試験 (国・英・選択)	●		
一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価入試)	英語民間試験結果	●		
	課題論文		●	●
総合型選抜 (自己推薦 (専願型))	自己推薦書		●	●
	小論文	●	●	●
	個人面接		●	●
学校推薦型選抜 (指定校)	調査書	●		
	小論文		●	●
	個人面接		●	●
学校推薦型選抜 (公募制)	調査書	●		
	小論文	●	●	●
	個人面接		●	●
特別選抜試験 (社会人・留学生)	調査書	●		
	個人面接		●	●